

わかりにくくも魅惑的な イラン音楽の世界とは。

神戸学院大学 人文学部講師
谷 正人
Masao Tani

皆

さんが好ましいと思うのは、どんな音楽でしょうか。聴き慣れたメロディーラインで、すぐに楽しいとか美しいと感じることのできる音楽ではないでしょうか。では、もし馴染みのない旋律の音楽を聴いた場合はどうでしょう。聴いた時点で、その音楽をわからないものかと判断し、それ以上聴こうとしないのではないのでしょうか。ペルシャ民族のなかで独自に発達したイランの伝統音楽は、私たち現代の日本人にとって、こうした「わかりにくい」音楽の部類に入るものと言えるかもしれません。



イランをはじめとする中東の音楽には、「微分音」と呼ばれる、西洋音楽の半音よりもっと微妙な「1/4音」「1/9音」といった音程が存在します。この微分音が曲のなかで多用されるために、西洋音楽を聴き慣れた耳にはとっつきにくい音楽だと感じるので。しかし、拒絶せずに聴き続けると、これが実に魅惑的な旋律に思えるようになるから不思議です。私も、その独特の魅力に取りつかれたひとりです。特に「サントゥール」というイラン起源の打弦楽器の虜になり、自ら演奏するまでになりました。現在もイラン音楽の研究のかたわら、演奏活動を続けています。

イランの伝統音楽は、もともと各地方で口伝えによつて継承されてきたものが宮廷音楽としてさらに発展したもので、それが20世紀に入り、西洋音楽の影響を受けて音楽が五線譜で表現されるようになってから習う層も一気に拡大。現代の日本人が日本の伝統音楽に親しむ以上に、老若男女を問わず愛され親しまれています。通常、サントゥールをはじめ、イラン独特の音色を持つ弦楽器のタールやセタール、胡弓のように弦を

こすつて弾くキヤマンチエ、葦笛のネイ、また、中東全体で広く使われるウードといった弦楽器や、イラン独特の弾き方をする太鼓・トンバックなど7、8人ほどの編成で演奏されます。これらの楽団に、ゲストとして



歌い手が招待され、悲恋や人生の悲しみ、辛さを切々と歌い上げ、観客は物思いにふけるかのように聴き入るといのが定番のスタイル。イラン人は非常に詩が好きな国民です。誰もがお気軽に入りの詩を持つていられるほどです。詩の朗読会と演奏会がセットになっていることも多く、言葉語るように演奏できる楽器奏者は人気が高い傾向にあります。

今年の秋から冬にかけて、神戸学院大学主催で「わからない音楽の会」と題したコンサートが3回に渡つて開催されています。最終回の12月6日には、「アラブペルシャインド」を叩く民族音楽の世界から」と題した演奏会が予定され、私もサントゥール奏者として参加します。冒頭に申し上げたように、わからないという理由だけで異文化の価値を知る機会を逃すことは非常にもったいないことです。わからないから、知りたいと努力してみる。その結果、お互いの文化を理解し合えるのです。今後も、演奏者として腕を磨き、本場でも認められる実力を身に付けたい。そして、研究も続けてイラン音楽という異文化の魅力を紹介していきたいと思っています。

※バックナンバーは、本学ホームページでご覧になれます。



I am,

私の場所は、このキャンパスにある。

Kobe Gakuin University



神戸学院大学

法学部	経済学部	経営学部	人文学部	総合コミュニケーション学部	栄養学部	薬学部
有瀬キャンパス	〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518	TEL:078-974-1551 (代)				
ポートアイランドキャンパス	〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3	TEL:078-974-1551 (代)				
長田キャンパス (法科大学院)	〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3	TEL:078-691-4888 (代)				

※大学院人間文化科学研究科心理学専攻が財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士第一種指定校として指定されました。

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>